

【平成30年度矢口小学校授業改善プラン】

生活科における平成29年度の授業改善推進プランの検証

<p>取り組みにおける成果と課題</p> <p>成果・【1年】活動後に、話し合いタイム(見合いタイム)など交流を行う時間を設けることでより広がり、深まりが見られた。</p> <p>・【2年】学校探検や町探検、赤ちゃん先生やちとせ会との交流を通して、様々な人や場所への関心を高めた。</p> <p>課題・活動する上での材料の精選や量の確保などの事前準備でより活動を充実させること。</p>

生活科における観点別分析

	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
観点別結果の分析	<p>【1年】植物の世話を通して、生長を喜び、愛着をもった。</p> <p>【2年】学校探検や町探検を通して、様々な人や場所に関心をもった。</p>	<p>【1年】活動を通して気付いたことを、言葉や絵で表現することができた。</p> <p>【2年】色や形、におい、感触などの視点に基づいて植物の生長を観察し、絵と文章で記録することができた。大きさを具体的に記したり、葉の形を似ている物に例えたりし、表現の幅が広がった。</p>	<p>【1年】植物の観察を通して、変化に気が付いたり、疑問をもったりすることができた。</p> <p>【2年】学校探検で1年生を案内し、自分の成長を実感することができた。町探検では、お気に入りの場所を紹介し合ったり、身近な施設を見学したりし、地域への愛着を深めることができた。</p>

授業改善のポイント

<p>分析を受けて、取り組む柱</p> <p>○活動の流れを知らせることで、見通しをもって意欲的に活動できるようにする。</p> <p>○1単位時間や単元の学習の中で、調べたり、育てたり、作ったりする活動における思考・表現の場面を、量と質の両面から充実させる。</p> <p>○学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子や、それらと自分との関わり及びよさに気付くように、指導の手立てを工夫し、共有していく。</p>

生活科の授業改善策

<ul style="list-style-type: none"> ・言葉や絵、動作、劇化など、様々な方法を用いることで、表現させる活動を多く設定する。さらに、学習を振り返る活動を1単位時間や単元の学習の中に適切に設定し、気付いたことや楽しかったこと、自分なりに工夫したことなど、視点を定めて考えさせるようにする。 ・気付いたことを考えて表現させる学習活動において、「目」「耳(音)」「鼻(におい)」「手(手触り)」などのマークを用いて指導し、気付きの質を高めることができるようにする。 ・繰り返し関わる継続的な学習過程を設定し、児童の思いや願いを高め、自らやってみたいことや疑問を見出すようにする。 ・友達との交流を大切にし、ペアやグループ活動も多く取り入れる。

平成30年度の成果と課題

<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
